

長野県の絶滅危惧植物調査報告

井上 健 (信州大・理学部・生物)

Ken Inoue: Reports on threatened plants in Nagano Pref.

長野県植物誌の基礎調査も兼ねて長野県植物誌編纂委員会では1992年より稀少植物の現状調査を行っている。また、環境庁の依頼により絶滅危惧植物調査の一環として1994・1995年の2年間に長野県の絶滅危惧植物調査を行った。環境庁に提出した報告を基に長野県の現状について報告してみたい。この報告をまとめるのにあたり、会員の浅野一男・池田登志男・今井建樹・奥原弘人・小沢正幸・尾曾清博・高橋秀男・中村英夫・中山 冽・花里 弘・松田行雄・元島清人・山崎 惇・和田 清・渡辺隆一の諸氏および北沢あさ子・高橋 勲・種谷光泰の諸氏に協力頂いた。この場を借りて礼を述べたい。

調査方法：環境庁より調査依頼のあった植物種に長野県独自の種をいくつか追加し、各人のこれまでの調査記録・信州大学の標本のデータベースを基礎資料としてまとめ、2年間に現地調査で確認できるものは確認を試みた。

調査結果：調査植物種はいくつかのカテゴリーに分類した。どの植物がどのカテゴリーに入るかはかなり主観的であり、また将来の調査により変更されるべきものである。長野県に存在するとする根拠の少ない種で、今回の調査で未発見の種は大部分報告の間違いとみなして割愛した。これらの中には将来見つかるともいえる種もあると思われる。なお、日本植物分類学会では絶滅危惧植物のカテゴリー分けについて新しい基準を設ける方向で準備を進めているが、この報告では従来のカテゴリーを使用することにする。

絶滅種 1 (Ex1)：長野県にかけて確実に生育

していたが、最近数年間生育個体が観察されておらず、絶滅したと考えられるもの。

キレバオオクボシダ・ヤナギヌカボ・コギシギシ・カンチャヤチハコベ・タコノアシ・マルミノウルシ・イヌセンブリ・ハナムグラ・ミゾコウジュ・オオヒキヨモギ・イズハハコ・タカオワニグチソウ・コワニグチソウ・クリイロスゲ・オオミズトンボ・ムカゴソウ・ヒナチドリ

絶滅種 2 (Ex2)：現状不明種というのが正確かも知れない。同様に絶滅したと推定されるが、もともと長野県に自生していたという記録に曖昧さがあつたり、再発見される可能性が高いと思われるもの。

オオアカウキクサ (1994年まで軽井沢町に自生していたが、1995年に見出されなかった)・ヌカボタデ・ヒメコウホネ・ハナハタザオ・チョウセンキンミズヒキ・マメナシ・シロヤマブキ・ミズスギナ・シオン・ワタムキアザミ・ホソバムカシヨモギ・イトクズモ・トリゲモ・エゾホシクサ・エゾイヌノヒゲ・ヒゲナガコメススキ・キタダケカニツリ・タデシナヒメスゲ・ヤマクボスゲ・タカネハリスゲ・アカスゲ・クジュウツリスゲ・イワチドリ

絶滅危惧種 (En)：県内に現在も自生していると思われるが、自生地が限られており、人間の影響や自然遷移により絶滅の危惧にさらされているもの。

チシマヒカゲノカズラ・ミズニラ・デンジソウ・サンショウモ・サクラバハノキ・オオイチョウバイカモ・ミギワガラシ (1994年に再発見)・ヒナノキンチャク・ミズキカシグサ・ミズマツバ・シナノノダケ・ノジトラノオ・アサザ・イワムラサキ・ムラサキ・ム

シャリンドウ・ニシキナギナタコウジュ・マ
ネキグサ・オオアブノメ・ツキヌキソウ・キ
キョウ・ヤマジノギク・ヤマタバコ・スブ
タ・ホソバヒルムシロ・リュウノヒゲモ・ヤ
マスカシユリ・サクライソウ・ヒンジモ・ヒ
ロハヌマガヤ（1994年の研究会で再発見され
た）・センジョウスゲ・カラフトイワスゲ・
コアニチドリ・マメヅタラン・キンセイラ
ン・ナツエビネ・キソエビネ・コアツモリソ
ウ・クマガイソウ・ホテイアツモリソウ・ア
ツモリソウ・キバナアツモリソウ・セッコ
ク・アオキラン・ベニシユスラン・サギソ
ウ・サカナラン・ウチョウラン・エビネ・サ
ルメンエビネ・キンラン・カヤラン・ハクウ
ンラン・ヤクシマヒメアリドオシラン

希少種 1 (R1)：産地が局限され個体数も少
ないため、潜在的に絶滅危惧種になる可能性
を持つが、高山帯や自然保護区域内にあり現
状では絶滅の可能性の少ないもの。

ミズスギ・ヒメミズニラ・ミヤマハナワラ
ビ・ヒメウラジロ・ニオイシダ・センジョウ
デンダ・イナデンダ・タカネシダ・ヤシャイ
ノデ・キンモウワラビ・ヒメデンダ・トヨグ
チウラボシ・コモチミヤマイラクサ・タチゲ
ヒカゲミズ・タカネミミナグサ・ミヤマツメ
クサ・ナンプワチガイソウ・チシマツメク
サ・タカネマンテマ・オンタケブシ・ツクモ
グサ・イチョウバイカモ・ヤツガタケキンボ
ウゲ・ソノウサイシン・ヘラハタザオ・クモ
イナズナ・キタダケナズナ・ヤツガタケナズ
ナ・モイワナズナ・トガクシナズナ・シロウ
マナズナ・ムラサキベンケイソウ・マルバチ
ャルメルソウ・チシマイワブキ・エゾサンザ
シ・ホザキシモツケ・リシリオウギ・カイフ
ウロ・ビッチュウフウロ・クロビイタヤ・シ
バタカエデ・ヨコグラノキ・チョウセンナニ
ワズ・チシマウスバスマレ・オオバタチツボ
スマレ・タデスマレ・トダイアカバナ・ホソ
バハナウド・キョウマルシャクナゲ・クモイ
コザクラ・コイワザクラ・ヒトツバタゴ・サ
ンプクリンドウ・ヒナリンドウ・コヒナリン
ドウ・オノエリンドウ・チチプリンドウ・シ

ロウマリンドウ・アカイシリンドウ・ヒメセ
ンブリ・ヤツガタケムグラ・ツルカメバソ
ウ・シナノアキギリ・キソキバナアキギリ・
エゾナミキソウ・コケコゴメグサ・シライワ
コゴメグサ・タカネママコナ・キタダケトラ
ノオ・イナサツキヒナノウスツボ・ウルップ
ソウ・ヤチコタヌキモ・スルガヒョウタンボ
ク・チシマヒョウタンボク・コゴメヒョウタ
ンボク・ミョウギシャジン・イワシャジン・
シライワシャジン・ハハコヨモギ・イワヨモ
ギ・キタダケヨモギ・アイズヒメアザミ・ヒ
ダアザミ・オオイワインチン・カワラウスユ
キソウ・ヒメウスユキソウ・イナトウヒレ
ン・ヒメヒゴタイ・アギナシ・ホロムイソ
ウ・シブツアサツキ・ヒメアマナ・ミカワバ
イケイソウ・ミズアオイ・キリガミネヒオウ
ギアヤメ・エゾイトイ・タカネイ・クロイヌ
ノヒゲモドキ・アズミイヌノヒゲ・オオムラ
ホシクサ・ヒメコヌカグサ・ミヤマハルガ
ヤ・ヤマオオウシノケノグサ・タカネソモソ
モ・タカネタチイチゴツナギ・タチイチゴツ
ナギ・タニイチゴツナギ・フォ・リ・ガヤ・ミ
ヤマカニツリ・リシリカニツリ・イナヒロハ
テンナンショウ・カミコウチテンナンショ
ウ・ヒメカイウ・ホソバウキミクリ・ミク
リ・タマミクリ・ナガエミクリ・ヒメミク
リ・タカネヤガミスゲ・タルマイスゲ・タカ
ネシバスゲ・ホロムイクグ・ダケスゲ・マン
シュウクロカワスゲ・クグスゲ・アシボソス
ゲ・オノエスゲ・サヤスゲ・ヌイオスゲ・ヒ
ゲハリスゲ・タカネクロスゲ・ミスズラン・
ムギラン・ホテイラン・キリガミネアサヒラ
ン・コハクラン・タカネトンボ・シロウマチ
ドリ・ガッサンチドリ・ヒロハトンボソウ

希少種 2 (R2)：全国的には希少な植物だが、
県内では個体数も比較的多かったり、亜高山
帯の本木のため盗掘の危険性が少ないなど、
現状では比較的絶滅の懼れが少ないもの。

ヒメハナワラビ・ヤツガタケトウヒ・ヒメ
バラモミ・アズサバラモミ・ヒメマツハダ・
ケシヨウヤナギ・チチブミネバリ・ヤエガワ
カンバ・キタザワブシ・ミョウコウトリカブ

ト・タカネトリカブト・ハゴロモグサ・ハクロバイ・キンロバイ・タカネスミレ・ヤマナシウマノミツバ・ハコネコメツツジ・ヒメツルコケモモ・グンバイヅル・トダイハハコ・クモマスズメノヒエ・ミサヤマチャヒキ・サヤマスゲ・ホソバオゼヌマスゲ

希急種1(V1)：全国的に広く分布する種だが、開発行為や採集などにより急激に個体数が減少しているもの。

スギラン・クラガリシダ・ウロコノキシノブ・エンビセンノウ・オオビランジ・ミスミソウ・カザグルマ・オキナグサ・セツブンソウ・イワカラマツ・ノカラマツ・トガクシソウ・マルバノウマノスズクサ・ヤマシャクヤク・ベニバナヤマシャクヤク・ナガミノツルキケマン・ツメレンゲ・キバナハナネコノメ・イヌハギ・アサマフウロ・ノウルシ・ハナノキ・ヒメビシ・ミヤマタニタデ・サクラソウ・シナノコザクラ・ハイハマボッサ・ホソバツルリンドウ・ムラサキセンブリ・スズサイコ・カイジンドウ・ヤマジソ・イヌノフグリ・カワヂシャ・ヒメタヌキモ・ムラサキミミカキグサ・ハナヒョウタンボク・オニヒョウタンボク・フジバカマ・アキノハハコグサ・タカサゴソウ・カワラニガナ・オオニガナ・ネコヤマヒゴタイ・イトモ・ヒメシャガ・ヒメマツカサススキ・トラキチラン・ミズトンボ・ヒメムヨウラン・カモメラン・ニョホウチドリ・トキソウ・キバナノショウキ

ラン

希急種2(V2)：希急種1に比較して県内では現存する個体数が多かったり、保護地区内に生育するため、相対的に絶滅の危惧が少ないもの。

イワカゲワラビ・ミヤマビャクシン・コマイワヤナギ・ミヤマツチトリモチ・ノダイオウ・タガソデソウ・シコタンハコベ・ハクバブシ・ミチノクフクジュソウ・フクジュソウ・ミヤマアオイ・コシノカンアオイ・クモマナズナ・ヤシャビシヤク・ウラジロキンバイ・オオヤマカタバミ・テングノコツチ・タチキランソウ・キセワタ・コウリンカ・タカネコウリンカ・カキツバタ・ミヤマイ・ミネハリイ・シュンラン

最後に：現在の人間の開発行為が続く限り、今後絶滅種の増加を避けるのは非常に難しい。しかしながら、今回の調査のきっかけともなった環境庁からの依頼のように、これ以上の絶滅を防ぎたいという社会的機運も生じて来ている。植物が安心して生活できる世の中になるまで、出来るだけ絶滅を防ぎたいものである。

研究会の会員には野外に出た際にこの報告で絶滅と判定された植物の再発見に努力して頂きたい。会員の努力によりなるべく多くの種が再発見されることを望みたい。